

◆ 今週のコメント

- ・ **新型コロナウイルス感染症**の報告が180例(男性107例(10歳代4例, 20歳代47例, 30歳代10例, 40歳代13例, 50歳代13例, 60歳代8例, 70歳代5例, 80歳代5例, 90歳代2例), 女性72例(10歳代5例, 20歳代34例, 30歳代7例, 40歳代4例, 50歳代12例, 60歳代5例, 70歳代2例, 80歳代1例, 90歳代2例), 性別及び年齢非公開1例)あり, 本年の累積報告数は3,460例になりました。
新型コロナウイルス感染症の患者数が急増しています。手洗いやマスクの着用など, 感染予防を徹底しましょう。
本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- ・ **ウイルス性肝炎(B型)**の報告が1例(20歳代女性)(第12週追加報告分)あり, 症状は全身倦怠感, 発熱, 肝機能異常等です。感染地域は国内, 感染経路は性的接触です。本年初めての報告です。
- ・ **水痘(入院例)**の報告が1例(80歳代女性)あり, 症状は発熱, 発疹, 肺炎, 肝炎です。本年初めての報告です。
- ・ **梅毒**の報告が4例(20歳代男性3例, 20歳代女性1例)(うち1例は第12週追加報告分)ありました。本年の累積報告数は13例になりました。
- ・ **RSウイルス感染症**は, 京都市では8例の報告がありました(定点当たり報告数0.19)。全国の定点当たり報告数は前週から微増し0.74で, 本年第1週以降は増加傾向が続き, 第8週以降は過去5年平均値を上回っています。現在, 九州地方で多く報告されており, 今週は宮崎, 佐賀, 長崎各県でそれぞれ6.83, 6.26, 4.93となっており, 熊本県と福岡県も4を超えています。他に, 大阪府(1.90), 岩手県(1.83), 富山県(1.62)でも比較的多く報告されています。京都市では流行の兆候はありませんが, 局地的に流行している地域があり, 隣接する大阪府でも報告が増えていることから, 今後の発生動向に注意が必要です。
予防には, 新型コロナウイルス感染症と同様, 手洗いやマスクの着用などが重要です。

◆ 今週のトピックス: <性感染症>

性的接触で感染する感染症を性感染症といい, 多くの疾患がありますが, そのうち, 性器クラミジア感染症, 性器ヘルペスウイルス感染症, 尖圭コンジローマ及び淋菌感染症の4疾患は, 感染症法上, 五類感染症の定点把握感染症に指定されています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 9例(肺結核 3例, 肺外結核 6例, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 2例)
【1月以降の累積報告数 60例(肺結核 21例, その他結核 25例, 潜在性結核感染者 14例)うち喀痰塗抹陽性 9例】
- ・ **新型コロナウイルス感染症 180例**【1月以降の累積報告数 3,460例】
- ・ 五類: ウイルス性肝炎 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 五類: 水痘(入院例) 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- ・ 五類: 梅毒 4例【1月以降の累積報告数 9例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

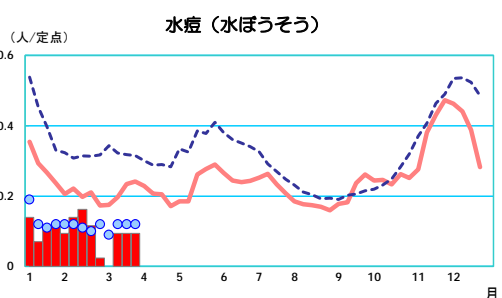
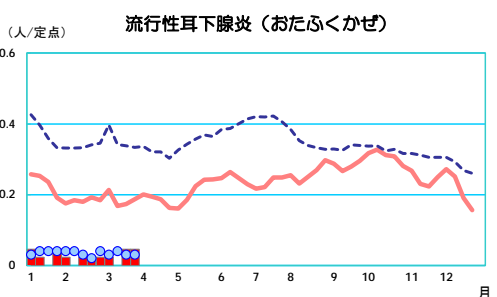
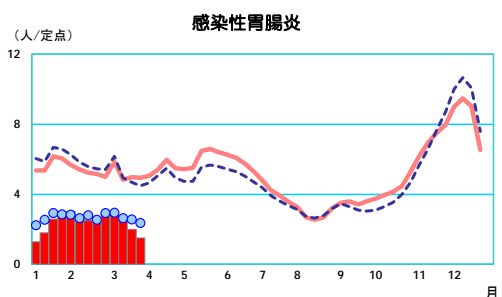
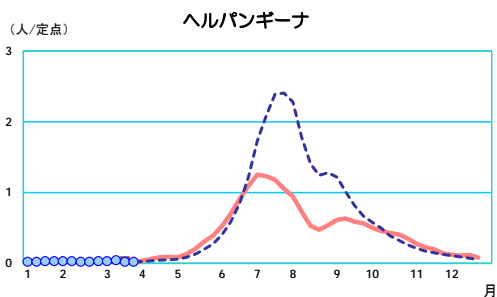
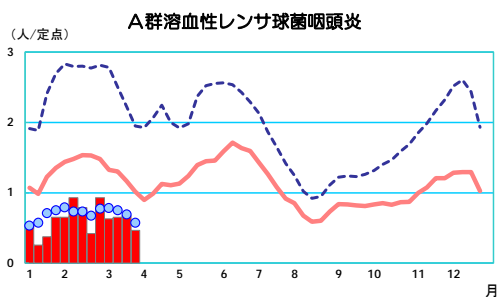
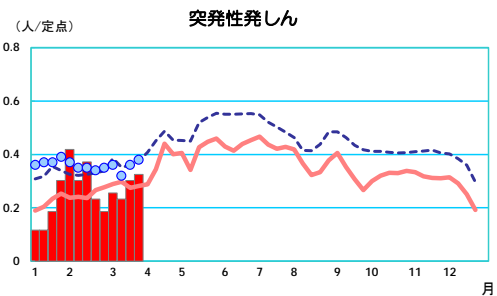
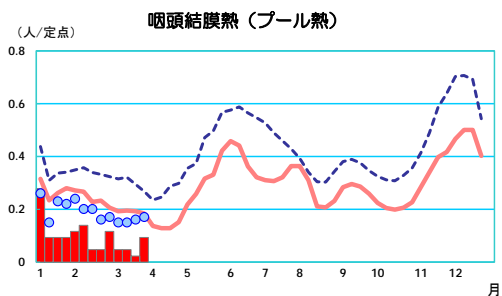
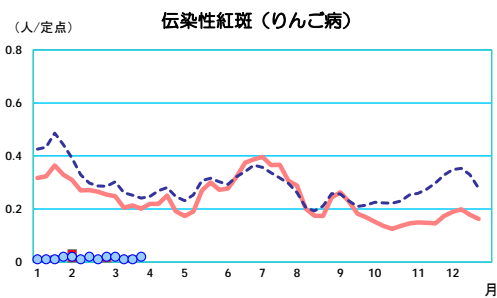
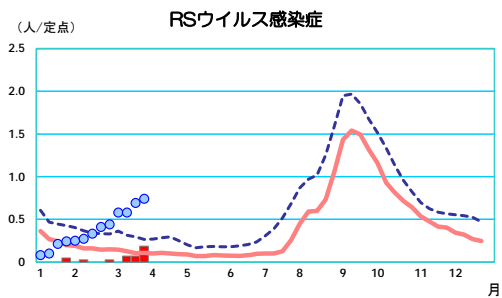
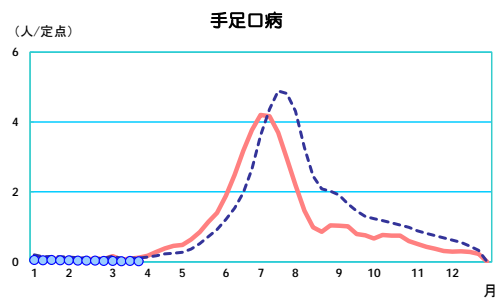
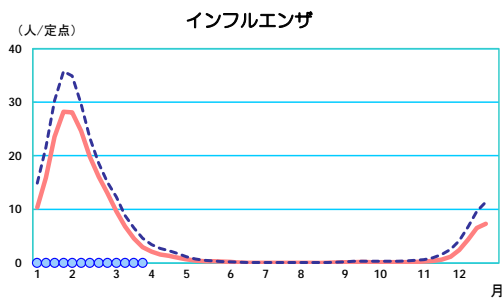
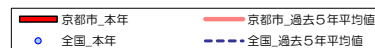
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ ^a	インフルエンザ	0. 01	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1. 51	65
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0. 47	20
	③ 突発性発しん	0. 33	14
	④ RSウイルス感染症	0. 19	8
	⑤ 咽頭結膜熱	0. 09	4
	⑤ 水痘	0. 09	4
眼科	流行性角結膜炎	0. 00	0

【次ページ以降の主な内容】

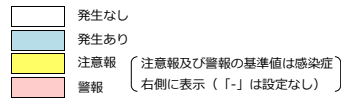
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <性感染症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2021年4月8日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

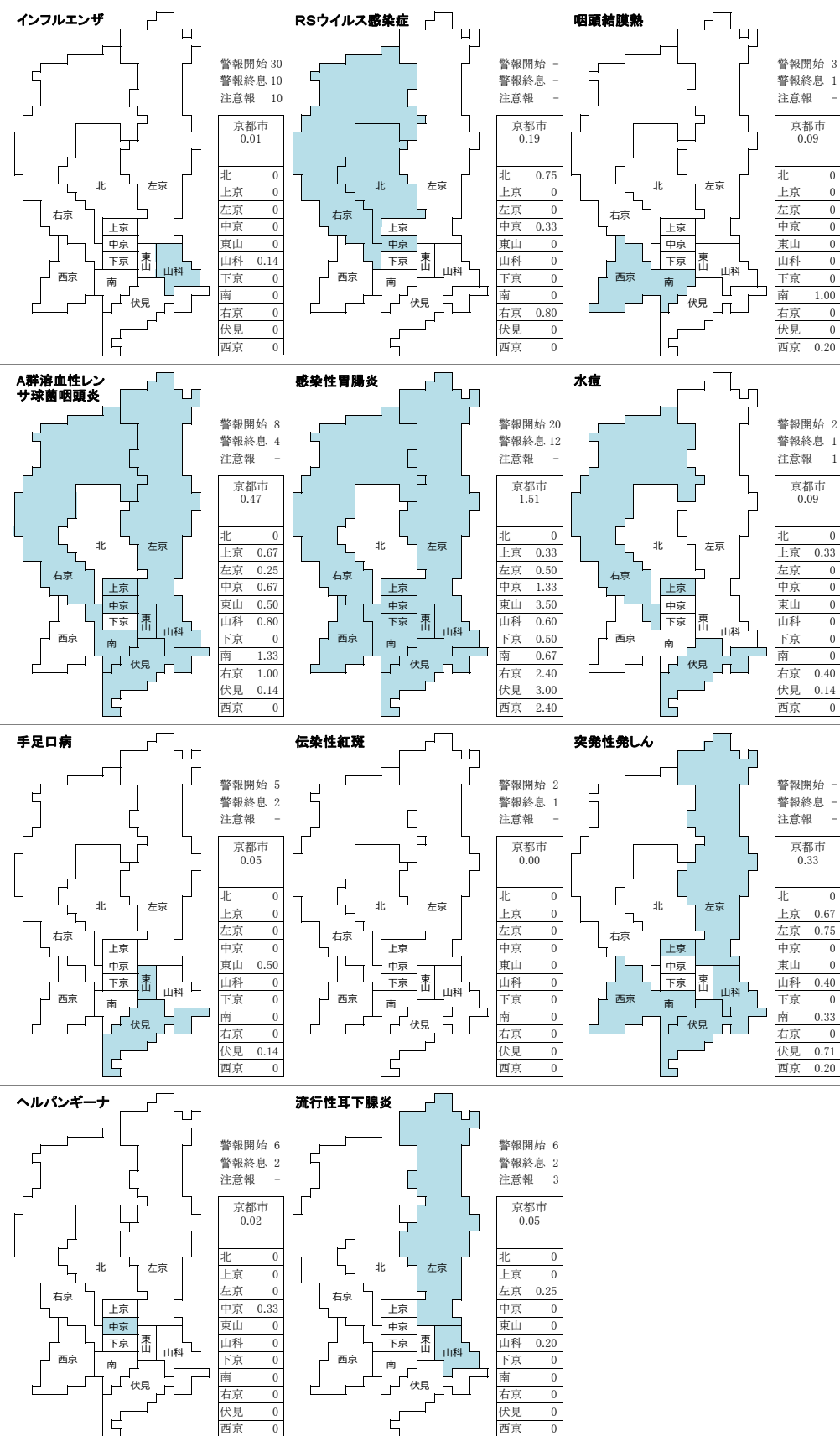
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2021年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2021年 第13週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
 したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や
 「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第13週(3月29日～4月4日)トピックス:＜性感染症＞

性的接触で感染する感染症を性感染症といい、多くの疾患がありますが、そのうち、性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ及び淋菌感染症の4疾患は、感染症法上、五類感染症の定点把握感染症(性感染症定点医療機関が月単位で報告)に指定されています。京都市では13(産婦人科7, 泌尿器科4, 皮膚科2)、全国では約1,000の定点医療機関から毎月報告があります。一方、梅毒及び後天性免疫不全症候群の2疾患は五類感染症の全数把握感染症に指定されており、診断した全ての医師から報告があります。これら6疾患の2020年の動向を過去10年と比較しました。

まず、定点医療機関から報告される4疾患の推移を見ると、性器クラミジア感染症は、京都市では、増減はあるものの2011年以降減少傾向で、2020年は過去10年で最も少なくなりました。全国ではおおむね横ばいですが、2016年から微増傾向が見られます(図1)。性器ヘルペスウイルス感染症は、京都市では2012年からの減少傾向が2015年以降増加に転じ、2018年に一旦減少、2019年に再び増加した後、2020年は微減でした。全国では期間を通じてほぼ横ばいです(図2)。尖圭コンジローマは、京都市では2017年に半減しましたが、2018年と2019年は2年続けて増加、2020年は半減し、過去10年で最も少なくなりました。全国でも2020年は減少しました(図3)。淋菌感染症は、京都市では横ばい状態、全国では横ばいないし微減傾向にありましたが、2020年はいずれも微増となっています(図4)。2012年以降は京都市の定点当たり報告数は、どの感染症も全国を下回っています。

次に、全数把握感染症である梅毒と後天性免疫不全症候群の推移を見ると、梅毒は、京都市では2013年までは10例を下回っていましたが、2014年に10例を上回って以降、急速に報告数が増えて、2017年は71例となりました。2018からは減少に転じ、2020年は60例でした。全国では2013年に1,200例を超えてから増加傾向となり、京都市同様に急速に増加し、2018年は7,000例を超えましたが、2019、2020年と2年続けて減少しました(図5)。後天性免疫不全症候群は、京都市では年によって違いはあるものの、9例から19例の間で推移しており、2018年以降は減少傾向です。全国では多少の増減はあるものの、おおむね減少傾向です(図6)。

新型コロナウイルス感染症が流行している現在、インフルエンザなど動向が劇的に変化した感染症がある一方、いずれの性感染症も動向が極端に大きく変化していないことは、特に注目されます。梅毒など、一見減少傾向に見える感染症も、その評価は慎重に行わなければなりません。性感染症は主に性行為という限られた経路で感染するため、社会構造や経済状況の影響も大きく、発生を抑制するためには、他の感染症と違う対策も必要になると考えられます。

図1 性器クラミジア感染症

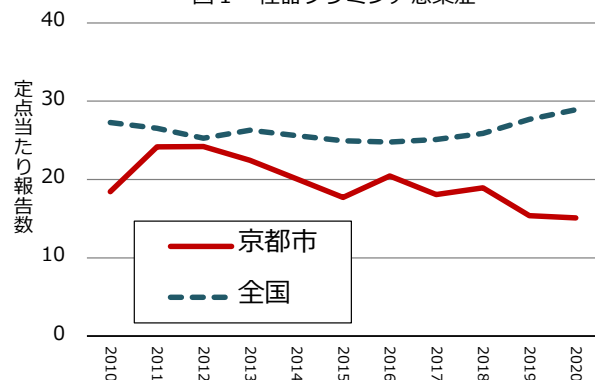


図2 性器ヘルペスウイルス感染症

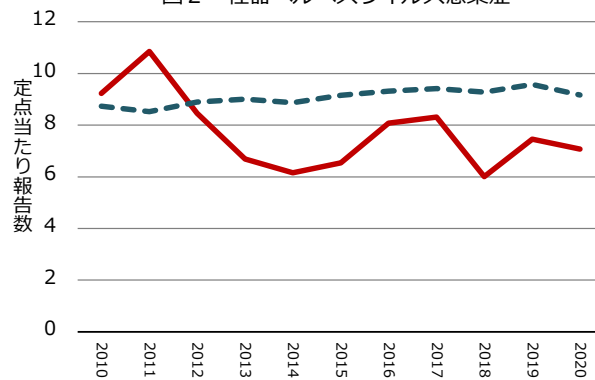


図3 尖圭コンジローマ

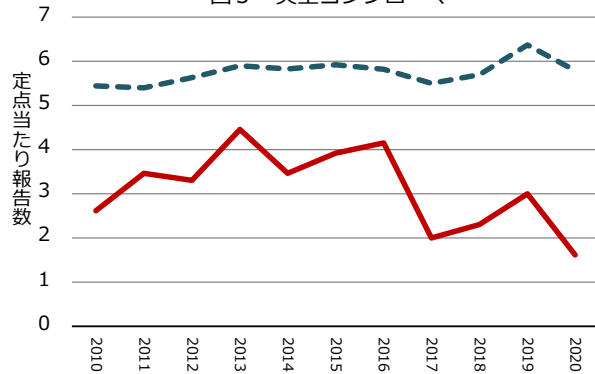


図4 淋菌感染症

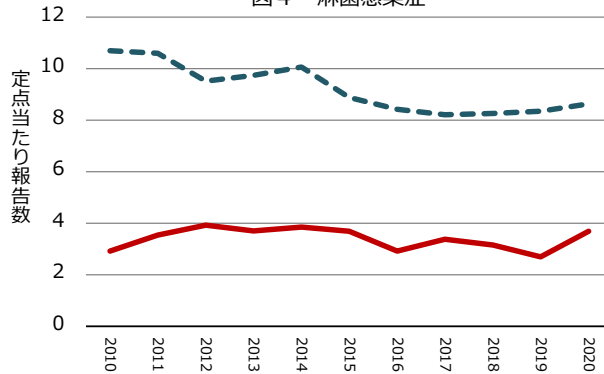


図5 梅毒

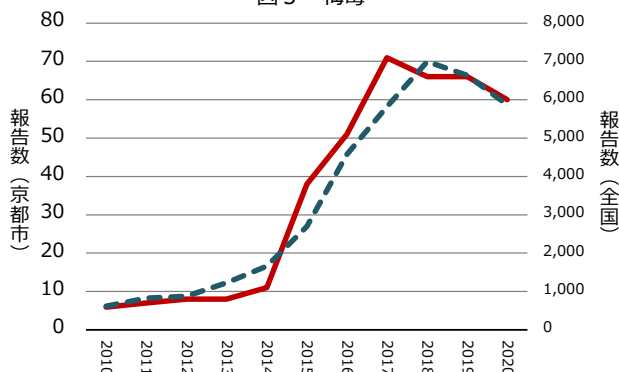
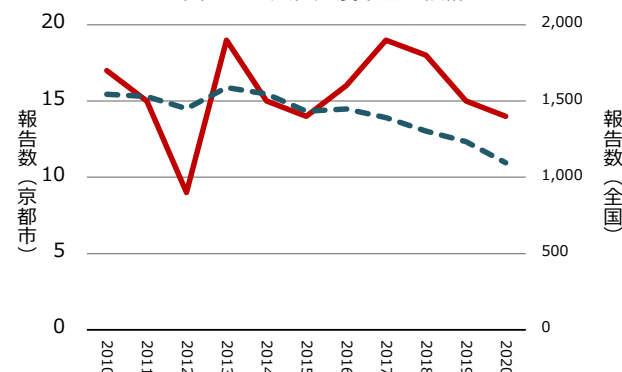


図6 後天性免疫不全症候群



京 都 市 感 染 症 発 生 動 向 調 査 情 報

集計対象:2021年第13週

年齢階級, 疾病別報告数

2021年3月29日～2021年4月4日

データ入手日:2021年4月8日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	8	2	-	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
咽 頭 結 膜 熱		4	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		20	-	-	4	3	2	2	4	1	-	2	1	-	-	1						
感染性胃腸炎		65	1	-	11	6	11	4	4	4	3	4	3	6	2	6						
水 痘		4	-	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-						
手 足 口 病		2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
伝 染 性 紅 斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
突発性発しん		14	1	2	9	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ		1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
流行性耳下腺炎		2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-						
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	0.19	0.05	-	0.09	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
咽 頭 結 膜 熱		0.09	-	-	0.05	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	0.02						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.47	-	-	0.09	0.07	0.05	0.05	0.09	0.02	-	0.05	0.02	-	-	0.02						
感染性胃腸炎		1.51	0.02	-	0.26	0.14	0.26	0.09	0.09	0.09	0.07	0.09	0.07	0.14	0.05	0.14						
水 痘		0.09	-	-	0.02	-	-	-	0.02	0.02	-	-	-	0.02	-	-						
手 足 口 病		0.05	-	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
伝 染 性 紅 斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
突発性発しん		0.33	0.02	0.05	0.21	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ		0.02	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
流行性耳下腺炎		0.05	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-						
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第13週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2021年4月8日

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		1	1	－	－	－	1
RSウイルス感染症		－	1	－	3	3	8
咽 頭 結 膜 熱		2	5	2	2	1	4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		18	40	27	28	29	20
感染性胃腸炎		113	126	122	115	86	65
水 痘		5	1	－	4	4	4
手 足 口 病		2	－	1	－	5	2
伝 染 性 紅 斑		－	1	－	－	1	－
突発性発しん		10	8	11	10	13	14
ヘルパンギーナ		2	2	1	3	4	1
流行性耳下腺炎		1	1	1	－	2	2
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		－	－	－	－	－	－
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		154	186	165	165	148	121

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		0.01	0.01	－	－	－	0.01
RSウイルス感染症		－	0.02	－	0.07	0.07	0.19
咽 頭 結 膜 熱		0.05	0.12	0.05	0.05	0.02	0.09
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.42	0.93	0.63	0.65	0.67	0.47
感染性胃腸炎		2.63	2.93	2.84	2.67	2.00	1.51
水 痘		0.12	0.02	－	0.09	0.09	0.09
手 足 口 病		0.05	－	0.02	－	0.12	0.05
伝 染 性 紅 斑		－	0.02	－	－	0.02	－
突発性発しん		0.23	0.19	0.26	0.23	0.30	0.33
ヘルパンギーナ		0.05	0.05	0.02	0.07	0.09	0.02
流行性耳下腺炎		0.02	0.02	0.02	－	0.05	0.05
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		－	－	－	－	－	－
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		3.57	4.32	3.84	3.84	3.44	2.81

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。